



冷たい雨の降る中、川内村コミセンに到着しました。予定時間より40分早くの到着でした。しかし30分時間を間違えた方がすぐにいらして私たちは対応や、渡すお土産（洗剤やお菓子）の準備に追われました。玄関でスリッパを並べお出迎えです。川内村はとても広い為、車がなければ来ることは不可能です。この日は15名弱の方々が来られました。8区それぞれ3～4人の参加を社協が呼び掛けてくださったのですが、各区長さんはこの人数の選択が難しく、自分だけ参加という方もおられました。今回様子がわかったので、次回をもっと連れてくる、呼びかけるという声が上がリ口コミの強さを痛感した次第です。仮設でなじみの方、五社の杜で会った方、新規の方の顔ぶれは新たな一歩を踏み出した感があります。今回クリスチャン新聞の中田さんも取材で同行されました。



音楽療法はいつものスタイルで始まりました。手の運動をしたり、口の運動をしたり、だんだんと体がほぐれてきて暑くなって皆上着を脱ぎ始めます。すると藤木先生ご夫妻は三味線を取り出し、「めでためでたあ若松さまよお～」と歌い出しました。いつ練習をしたのでしょうか？お聞かせできないことがとても残念です。皆も楽器を叩いて一緒に歌う姿は一体感を生み出しました。一番下の写真はお茶とケーキで歓談している風景です。ピースをしている男性のEさんは仮設からの方で藤木先生の横に座って嬉しそうな顔をしています。元自治会長で今は村会議員の志田さんも来てくださいました。お茶を飲みながらだ



皆、いろいろな話をしてくださいます。いつも仮設からの常連のYさんは1区の自宅から5区のコミセンまで雨の中運転は危ないからと欠席するとのお知らせもこの席で聞きました。午後はYさん宅を訪問することに決めました。帰りに皆さんに洗剤と焼き菓子と渡すと、とても喜んでくださいました。



川内村 観光マップ

(写真上の川内村の地図に記されている数字は各区の位置。中央のコミセンから1区のYさん宅へ)
 1区にすんでいるYさんのお宅は5区のコミセンから車で30分ほどです。5区よりも標高も高く温度も低いようです。雨も止み青空も広がった晩秋の川内村をドライブです。美しい風景の山道を走っていくと除染土の青いビニール袋を発見しました。そのすぐ隣の畑では白菜が栽培されていました。1区に入ると集落が見えましたがYさん宅がわからず、集会所で聞くとすぐに教えてくれました。すぐ近くのようなのですが、横浜に住んでいる私たちにとっては「近く」の距離が違いすぎました。やっとたどり着いたYさん宅はひたすら山と畑の風景が広がる突き当りの場所でした。Yさんは突然の私たちの訪問にびっくりした顔で出てきましたがすぐに満面の笑みを浮かべ「いやいやいやあ、これはこれは」と挨拶され、更に藤木先生の顔を見てもっと嬉しそうな顔になりました。1か月ほど入院されていたそうです。「でも今は大分よくなった。これも神様のおかげだなあ！」と藤木先生の顔を見ながらそう言いました。南一丁目仮設でも広報担当だったYさんは自分のカメラを出して私達と記念撮影をし、来月のコミセンの音楽療法には行くから（無理しないで下さいね）、と約束して別れました。こんな遠いところから90歳近い方が運転をして来て下さっていたのかと私達も感無量でした。庭には大きな桜の木と(写真下中央)川内村のシンボルさらさどうだん(写真下右)の木がありました。花言葉は「明るい未来」です。

